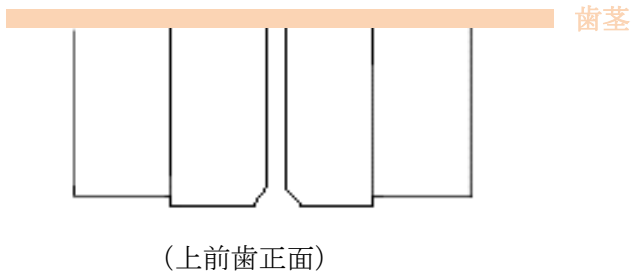


(5) 歯茎の所まで削った。



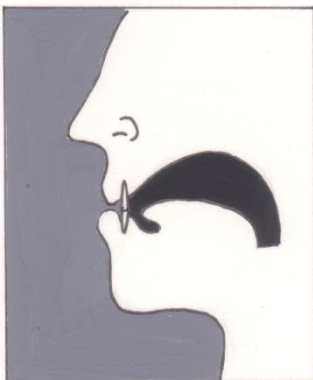
プロのトランペット奏者から、歯茎の所まで隙間がある内外の演奏家がいることを知り、同様に開けた。

結果

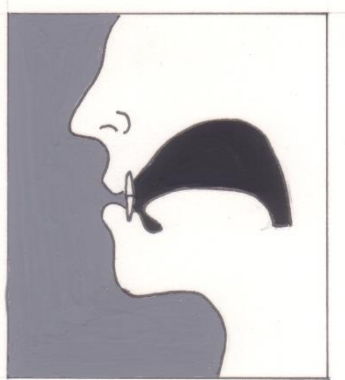
息はほとんど無抵抗に吹き込むことができたが、高音も低音も音が出しにくくなった。トランペットとトロンボーンでは違う可能性があり、また、口蓋の浅い日本人は歯が口蓋の深さを助けると、この時点では思った。

口蓋の深さ (一般論)

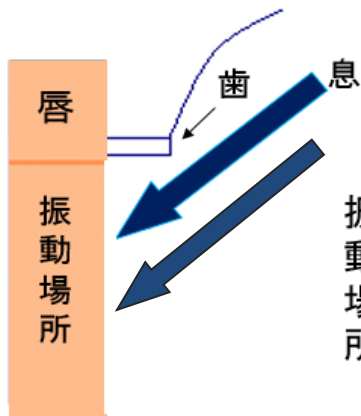
日本人



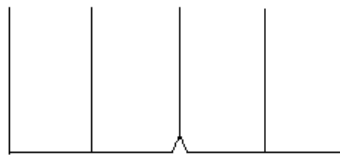
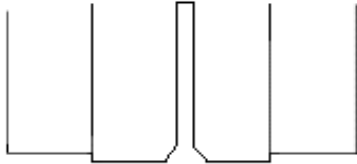
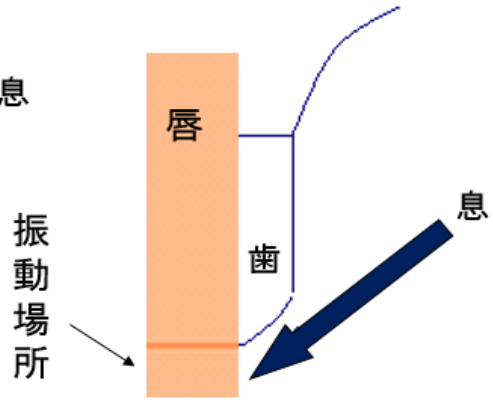
西洋人



A
(歯茎の所まで削った状態の側面図)



B
(歯を削る前の側面図)



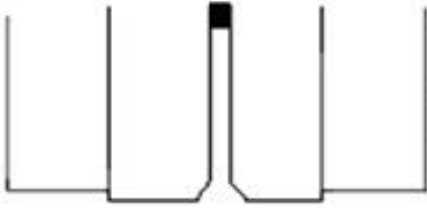
説明

- A 息は上唇の広範囲に当たり唇を振動させるのが難しい。
- B 息は唇の底辺に当たる。(普通の状態)

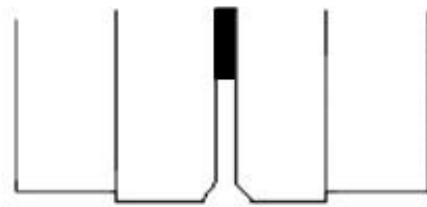
(6) 開けた隙間をふさぐ。

最適な長さを探するために、約2年間続けた。

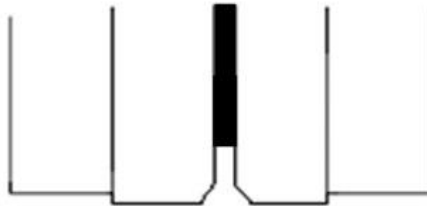
①



②



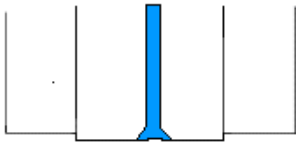
③



④



結果



* 空けた隙間を数ミリ残してほとんどを塞ぐのが一番良い状態だった。

実践

隙間を埋めるための代用品として、当時発売されていたロッテ社の「2倍かたいチューインガム」を使用した。

平成元年に行われた銀座のパレードで、高音を吹けないトランペット奏者が、これを使い高音を出すことができた。

問題点

歯科医の処置でも食事をするとう詰めた所が減ってしまうので、同じ状態で唇を振動させることができなかった。

歯の重要性は理解できたが演奏が困難な状態になった。

今回は詰めた所が減らないようにした報告です。